

金沢地方気象台長からのメッセージ

金沢地方気象台のホームページをご覧ください、ありがとうございます。

金沢地方気象台は、明治15年、香林坊に隣接する金沢市広坂に石川県地理課測量掛測候部として開設されました。明治41年には金沢市弥生に移転し、その後、昭和13年には国に移管され金沢地方気象台となりました。平成3年からは、現在の金沢市西念（金沢駅西合同庁舎）で気象業務を行っています。

石川県は、本州のほぼ中央部で日本海に面した位置にあり、宝達山、石動山などで構成される宝達丘陵を境に富山県と接し、白山、大日山などの両白山地を境に岐阜県、及び福井県と接し、能登半島が日本海に大きく突き出しています。このように豊かな自然に恵まれ、四季折々の景観を楽しむことができる一方で、平成20年の浅野川の氾濫や平成19年の能登半島地震などの災害が発生しています。

「平成30年7月豪雨」では、「大雨特別警報」が平成25年の運用開始以来最多となる11府県に発表される大雨となり、隣接する岐阜県を含む各地に甚大な被害をもたらしました。幸いにも県内では大きな災害には至りませんでした。近年は地球温暖化等による気候の変化に伴い全国各地で局地化・集中化・激甚化した大雨等による災害が相次いでいます。

金沢地方気象台では、日々の天気予報のほかに、自然災害から身を守るための気象情報を発表しています。県内の防災関係のみならずにも協力をいただきつつ、気象台が発表する気象情報を正しく理解・活用していただき、地域全体の防災力をよりいっそう向上していくための取り組みを進めてまいります。

平成30年9月



金沢地方気象台長 すだ よしひさ 須田 良久